

第5章 「配列」のまとめ

5.1 用語のまとめ

教 p.88

配列 同一の型のデータを集めて、番号(____)でアクセスできるようにしたもの。C言語の配列の添字は_____

```
1 /* 初期化しないとき */
2 int va[5];
3 /* 配列の初期化は、式をコンマで区切って { } で囲む。 */
4 int vb[5] = { 15, 20, 30 };
5 /*(_____。) */
6
7 /* 初期化子を代入することはできない。(教 p.92) */
8 vb = {15, 20, 30, 0, 0};
9 /* 配列同士の代入はできない(教 p.93)。 */
10 vb = va;
```

教 p.90

配列と for 文 配列は for 文と相性が良い。n 個の要素を持つ配列の各要素に対して同じ操作を行なうときには次のような for 文を使う。

```
for (____; ____; ____) {
    a[i] = ...;
}
```

教 p.94

配列を逆順に並びかえる 2つの変数 x, y を入れ替えるのに、

```
x = y; y = x;
```

と書いてもダメで、別の変数を一つ用意して、

と書く必要がある。

教 p.96

オブジェクト形式マクロ(定数マクロ) プログラム中で繰り返し使う定数は名前をつける。

```
#define NUMBER 5
```

この前処理指令は NUMBER という _____ を定義する。マクロは他のコンパイル処理に先だって、一括して置換される。マクロを定義すると、

- 値の変更が容易になる。
- 定数の意味がわかり易くなる。秘密の数値(マジックナンバー)を直接プログラムに埋め込まないこと!

マクロ名は通常 _____ にする。

教 p.98

代入演算子 代入(変数 = 式)も式であり、値(_____)を持つ。代入演算子は _____ である。つまり、 $x = y = 0$ は _____ と解釈される。

教 p.102

多次元配列 2つ以上の添字を持つ配列のこと。ただし、物理的には一次元に配置される。(Fig.5.5 参照)

教 p.103

```
int x[2][3] = {{ 1, 2, 3 }, { 4, 5, 6 }};
```

教 p.104

break 文 _____
 _____ (外側の繰返し文を一気に抜け出すことはできない。)

continue 文(参考) _____

| break 文 | continue 文 |
|---------|------------|
| | |

教 p.110

コンマ演算子

式₁, 式₂

は、式₁、式₂をこの順に評価し、 _____ (と型) を持つ。

5.2 文法のまとめ

宣言 (declaration) に以下を追加する。

| 分類 | 一般形 | 補足説明 |
|------|------------------------------------|-----------------|
| 変数宣言 | 型 変数 = 式 , ... , 変数 = 式 ; | = 式 の部分は省略可能 |
| 配列宣言 | 型 変数 [_____] = { 式 , ... , 式 } ; | = 以降の灰色の部分は省略可能 |

式 (expression) に以下を追加する。

| 分類 | 一般形 | 補足説明 |
|--------|---------|------------------|
| 配列アクセス | 式 [式] | a[1], b[2][3] など |